

荷電粒子管理運営委員会 議事録 第4回

日時 : 1991年 8月 2日(金) 18時～
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 赤石、長田、加藤、岡部、能登、片山、千葉、向井

I. 報告

- 千葉 : ① 10/3,4 核データ専門家会議 (於 原研)
② 10/7～11 IAEA Moscow会議
NRDF 千葉 — 出席予定
理研 天道 — IAEAより出席要請
原研 菊池 —
③ 11/28,29 核データ研究会 (於 原研)
- 片山 : 私大情報教育連絡協議会委員に委嘱された。
データベースの公開と保護について議論。

II. 討議

[1] データ収集の仕方について

国内の主な原子核実施施設 ; 東北大、新潟大、原研、KEK、東大、
東工大、筑波大、理研、RCNP、
京大、九大

にアニュアル・レポートを定期的を送ってくれるよう手紙を出した。
今後、このアニュアル・レポートをもとに国内のデータ収集を
行なってゆくことが考えられる。

能登氏より

野尻さんから、「RCNPのデータには、コーディングシートに
馴染まないものがあり、手塚さんから、「現在、東工大、理研の
データを中心に集めているが、どういうデータを取ったら良いか」
という質問が出されている」との事。

III. 次回の委員会は9月20日(金)18時から

荷電粒子管理運営委員会 議事録 第5回

日時 : 1991年 9月20日(金) 18時～
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 赤石、長田、加藤、岡部、能登、片山、千葉、吉田、向井

I. 報告

- 能登 : 辞書を更新しても、核反応の部分のエラーは消えない。
システムジェネレーション時の file を更新すれば、
うまく行くだろう。
同時に、検索のキーワードも更新されるであろう。
システムをコピーして実験的に試してみようと思う。
- 千葉 : ① 10/3,4 高エネルギー核データ専門家会議から、
我々のグループに講演して欲しいとの依頼があった。
② 10/7~11 IAEA Moscow会議に対し、
昨年EXFORに変換したデータ19件を今日(9/20)送った。
そのうち2件に、本来EXFORで使えない Word が
含まれている。
- 吉田 : 今年の作業。60件を予定している。
野尻さんから、RCNPのデータ 14,5件
手塚さんから、東北大のデータが3件、これに送られてきた
アニュアルレポートのパブリケーションからピックアップ
したものを加えると、現在のところ 40件位。
- 加藤 : アニュアルレポートは、Publish されたものと一致していない
かもしれないという問題がある。
入力データは、基本的に運営委員会で決定する。
- 赤石 : なるべく、Publish されたものに絞ることにする。

II. 討議

[1] 検索キーワードについて

- 能登 : 検索のためのキーワードは、NRDFの辞書とは
異なるので問題がある。
- 加藤 : キーワードは、EXFORに変換した時にも使えるので、
意味がある。

[2] Moscow会議で発表の方が良い項目について

- 千葉 : EXFORに変換されたものだけを送っているが、
NRDFに関しては、profile を紹介するつもり。
- 赤石 : 理論的に、どの様なデータが有効か意見を聞いてきて
欲しい。

加藤 : 現在 π^\pm の反応は入っている。

photon - nuclear 反応はどうすべきか？

片山 : 日本語で、物理量の項目の一覧を出した方が、
向こうも意見を言いやすいのではないか。

Ⅲ. 次回の委員会は10月25日(金)18時から

荷電粒子管理運営委員会 議事録 第6回

日時 : 1991年10月25日(金) 18時～
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 赤石、長田、加藤、岡部、能登、千葉、吉田、向井

I. 報告

赤石 : 核データ研究会(11/28,29,原研)の予定。

吉田 : 収集論文として50編を予定している。

II. 討議

[1] 原研専門家会議

赤石 : 助言委員に橋爪氏(理研)に代わる人がいるかどうか?
菊池氏(理研)を助言委員会に(鹿園氏はそのまま)新たに
加えることを交渉する。

[2] オブニンスク会議 (千葉氏が出席した)

千葉 : NRDFのアンニュアルレポートに英文タイトル、アブストラクトを
付けてはどうであろうか。(国際的にも通用するであろう)
今後IAEAが開発したEXFORのチェックプログラムのメンテナ
ンスはしないこととなった。ボックス・システムでサポートする。
ソ連から日本でワークショップを開催して欲しいという話があった。
会議では評価システムの報告・討論が多かった。

[3] 野尻さんからの手紙

能登 : ヒストグラムを取るかどうかという問い合わせがあり、
基本的には取らないことにした。
今回のグラフについては、他に同様のデータがある所は
取らないこととし、Fig. 2は取ることとする。

III. 次回の委員会は11月29日(金)18時から

荷電粒子管理運営委員会 議事録 第7回

日時 : 1991年11月29日(金) 18時～
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 赤石、長田、加藤、岡部、能登、千葉、吉田、向井

I. 報告

- 岡部 : デジタイザーのカーソルについて業者に問い合わせたところ、カーソルの黒い十字線で細いものは作っていないとのこと。
(グラフ読み取りの際、太い十字線がじゃまになる)
- 千葉 : 科研費(試験研究)の申請書を作成した。
- 吉田 : 現在のデータ収集状況、コーディング済みが39編、そのうちパンチ入力済みが31編。60編ぐらいが適当と思われるが、とすると30編位足りない。
(1987年までのデータを遡ってゆく予定)
- 加藤 : キー入力してもらっているのアルバイトの人から、フォーマット用紙の不備を指摘された。グラフ読み取りが遅れているので、物理の学生に頼むという案を検討中である。

II. 討論

[1] 1991年度報告書の作成計画について(別紙参照)

- 加藤 : タイトル、アブストラクト、目次の英文を付ける方針。
報告書に物理の議論を付け加えてはどうか。また、ハイパー核の分野ではどのような物理量が必要であるか。
入力データを著者にチェックしてもらうような体制を作ることが、長年の懸案である。
助言委員の阿部氏より、「原研からでている報告書を見ると、NRDFのデータベースとオーバーラップしているものがある。原研のアクティビティとNRDFのアクティビティをどのように考えているのか。」という、質問がでている。
RCNPの動向について、池上さんまたは野尻さんに原稿依頼するという案もある。
- 赤石 : 池上さんの記念文章となってよいであろう。
- 千葉 : 「新NRDFシステムの開発」という原稿の依頼ですが、これはペンディングにしておいて下さい。
- 加藤 : 不安定核の今後について、谷畑さんに意見を聞いてみるのも良いかも知れない。

III. 次回の委員会は12月28日(土) 1時30分から

1991年度NRDF報告書編集計画

基本方針

1. タイトル、アブストラクト、目次の英文を付ける。
2. データ収集との関わりが深い物理の議論を入れる。
3. 助言委員にも原稿依頼の可能性を考える。

具体的内容

- | | | |
|-------------------------|---------|-----|
| 1. はじめに | 赤石 | 1頁 |
| 2. NRDF活動日誌 | 赤石 | 2頁 |
| 3. MOSCOW会議報告 | 千葉 | |
| 4. 今年度入力データ報告 | 加藤、吉田 | |
| 5. 入力データの著者校正体制 | 片山、加藤 | |
| 6. RCNPの動向について | 池上 | 10頁 |
| 7. ハイパー核データの今後 | 赤石 | |
| 8. 新NRDFシステムの開発 | 千葉 | |
| 9. Eアレーナ | (谷畑、熊野) | <10 |
| 10. シグマ委員会からNRDFに期待すること | | |

荷電粒子管理運営委員会 議事録 第8回

日時 : 1991年12月28日(土) 1時30分～
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 赤石、長田、加藤、岡部、能登、片山、千葉、吉田、向井

I. 報告

- 千葉 : 原研の研究会の報告書を作成した。
吉田 : 今年度58編のコーディング依頼中。
(パンチ入力32編終了)
もう少し増やしたいと思っている。
加藤 : 野尻さんからの質問で、「タイトルで0h ω というのが含まれているが、これを0HBAR-OMEGAと入力しても良いだろうか？」
赤石 : 良いだろう。
加藤 : グラフ入力のアルバイトを芦沢さんをお願いする予定。

II. 討論

[1] 1991年度報告書の作成計画について

- 加藤 : 赤石さんより、池上さんに依頼する。
加藤より、Eアリーナの件についてコンタクトを取る。
千葉 : 8番のタイトルの入れ替え
「NRDFデータベースアクティビティ」
赤石 : 原研に了解をとっておけば内容は同じでも良いであろう。
千葉 : 送られてきたEXFORのインデックスリストを載せる。
(50頁位)
加藤 : もう少しアカデミックな話が含まれていても良いと思う。
能登 : ハイパー核の一例を野尻、手塚さんに送ってもらって、これにどのようなキーワードを付け加えると良いかと言うことを、検討してみると良いでしょう。
赤石 : 原稿の締め切りは、1月末。

III. 次回の委員会は1992年2月4日(火) 6時30分から

荷電粒子管理運営委員会 議事録 第9回

日時 : 1992年2月4日(火) 6時30分～
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 赤石、長田、加藤、岡部、能登、片山、千葉、吉田、向井

I. 報告

- 千葉 : 核データ評価方法に関するシンポジウムをBNLでやる。
吉田 : 今年度58編のコーディング依頼中。
(パンチ入力47編、グラフ読み取り20編終了)
能登 : ハイパー核、中間エネルギーでのコーディングの仕方について、野尻さんから
「構造に関するデータはそもそも捨てていたのではないか？
大文字小文字の区別やギリシャ文字の表現はどうするのか？
例えば、Reaction $^{12}\text{C}(k^-, \pi^-)^{12}_\Lambda\text{C}$ の表現方法は
12C(KN, PIN) 12C-LAMBDA
ではどうか？ 2次ビームの記載方法はどうすべきか？」
という、質問が出された。
また、手塚さんからは
「 Σ 粒子はSIGMAとは書けない(断面積とかち合うため)
ので、どう記載したら良いか？ エネルギーだけでなく、
運動量に対する記載も必要ではないか？」
という、指摘があった。
加藤 : 解決策がここでは決まらなかったとしても、今回の報告書で
どの様なデータを対象とすべきかという問題について、取り上げ
たらよい。

II. 討論

[1] 採集すべきデータの範囲について

- 岡部 : 今後のスケジュールとしてどのように進めて行くのか？
加藤 : これまで、スピン偏極などの項目について追加や変更を
してきた、という経過がある。また、新しい分野のデータを
NRDFのシステムに収集する場合は、将来EXFORに
変換することを考慮に入れなければならない。
千葉 : EXFORでは、すでにコードがすべて決まっていて、
どうしてもそれ以外のものを使いたければ許可を得なければ
ならない。

- 赤石 : 採集すべき範囲は広げるべきであろう。
- 加藤 : 管理委員会の意見としては、おおまかに反応のデータと構造のデータとに分けて、構造のデータは落としてきたが、国内のデータを集めるという主旨においては、その分け方は必ずしも明確な基準があるわけではない。将来的に収集するデータの範囲が拡大することを考慮に入れておかなければならないが、現在どの範囲のデータを収集するかは、可能な限り決めておく必要があると思われる。

[2] 1991年度報告書の作成計画について

- 赤石 : RCNPの動向については、池上さんに引き受けて頂いた。
ハイパー核データの今後は、現在執筆中。
- 千葉 : NRDFデータベースアクティビティーは終了、7ページ。
- 加藤 : Eアレーナの件は交渉中、天体核反応の件は依頼した。
全体で70頁位になる予定。
原稿の最終締切りは、2月20日。

Ⅲ. 次回の委員会は1992年2月27日(木)6時30分から